

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 清原東 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 47人

② 算数 47人

5 留意事項

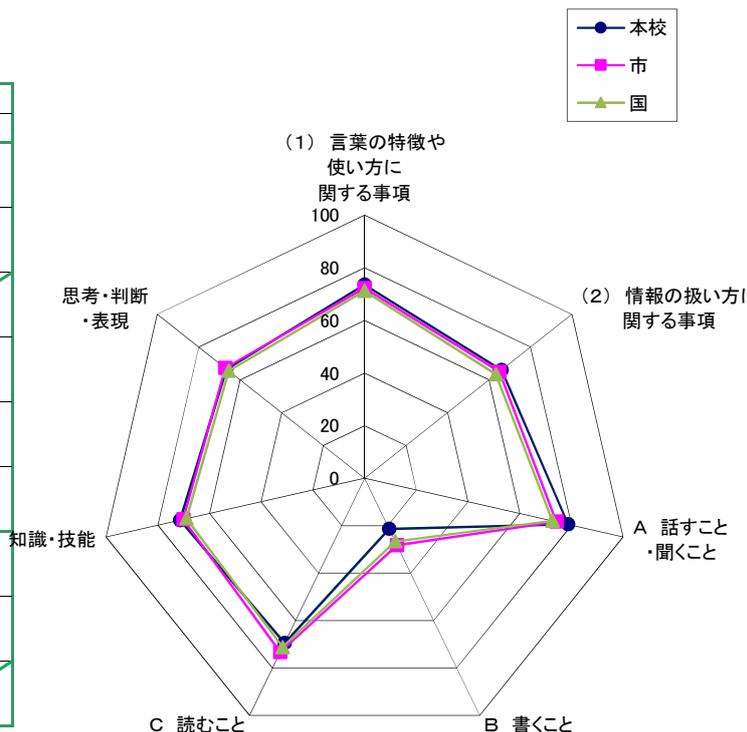
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.6	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	66.0	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	78.7	74.2	72.6
	B 書くこと	21.3	28.2	26.7
	C 読むこと	69.5	73.3	71.2
観点	知識・技能	71.4	70.2	68.9
	思考・判断・表現	66.6	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

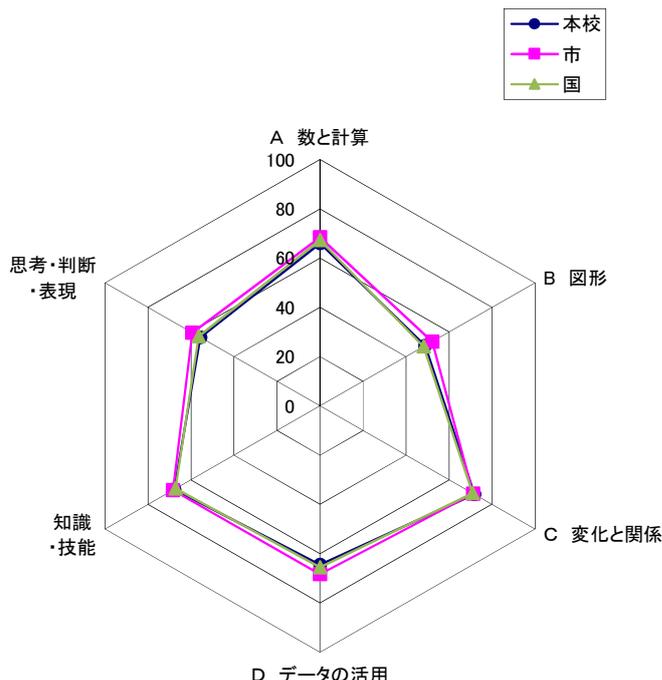
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市よりやや高い。 ○敬語の使い方をよく理解している。 ●学年別漢字配当表に示される漢字を文の中で正しく書くことに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常生活の中で、習った漢字を使っていくことを指導していく。 ・敬語の使い方についての掲示物を貼るなどして常に確認できるようにしたり、学校生活の中で意図的に使う機会を設定したりする。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市よりやや高い。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使うことができている。	・接続語や指示語などに気を付けながら、文章を読み取ったり、文同士の関係を考えたりできるように指導していく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市よりやや高い。 ○目的や意図に応じて話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめて書くことができている。	・朝のスピーチで話をする練習やスピーチしたことに対しての質問を考えさせる。その際、話をする型や質問の型をいくつか用意する。
B 書くこと	平均正答率は市より低い。 ●文字数に条件がある記述の問題に課題が見られる。 ●図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き方を工夫することが難しい。	・文字数など条件を設定し、各教科で縦断的に指導していく。 ・5年から引き続き、話題を提示した日記指導を行い、楽しみながら書くことに取り組ませる。
C 読むこと	平均正答率は市よりやや低い。 ○自分の考えや思いをもっている。 ●複数の資料を結びつけて、内容の中心をとらえ要約することに課題が見られる。 ●資料をもとに自分の考えを述べることに課題が見られる。	・文章の要旨を正しく捉えることができるように、国語科だけでなく、様々な教科でも指導していく。 ・読み取った内容を文章で表すことに抵抗を感じたり、苦手意識があったりする児童がいるので、先ず、キーワードを押さえてから、文章を書かせるなど指導の工夫を図る。

宇都宮市立清原東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.0	68.4	67.3
	B 図形	48.9	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	71.8	71.2	70.9
	D データの活用	64.5	68.3	65.5
観点	知識・技能	67.8	68.4	67.2
	思考・判断・表現	55.6	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は市よりやや低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○分配法則を用いて答えを求めることができている。 ○$66 \div 3$の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶことができている。 ●全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算することに課題が見られる。 ●運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求めることに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1の位が0の2つの二位数について、乗法の計算ができるよう、0のついた大きな数の乗法を練習し、習熟を図る。 ・表から数字を読み取り、「以上」「以下」の表記の正しい意味について考えられるようにする。
B 図形	<p>平均正答率は市よりやや低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書くことができている。 ●テープを直線で切った二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・底辺の長さが高さが同じ三角形の面積について、公式を確認する。 ・底辺の長さが高さが同じ三角形の面積について、形が変わっても面積が変わらないことを捉えられるように自分の言葉で表す機会を設ける。
C 変化と関係	<p>平均正答率は市よりやや高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○示された基準量と比較量から、適切な割合を選ぶことができている。 ●椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書くことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二つの数の関係性に着目して考える機会を多く設ける。 ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることに気づき、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉で記述する力をつけられるよう、授業の中でも説明したり記述したりする場面を設定する。
D データの活用	<p>平均正答率は市よりやや低い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●二次元の表から、読み取ったことの根拠となる数の組み合わせを選ぶことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表の読み方を確認し、どの数字が何を表しているかを説明できるようにする。 ・表の空欄に入る数字を考えるために、思考のプロセスを考えながら問題解決をできるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「総合で自分で課題を調べて発表するなどの活動に取り組んでいますか」の設問では県平均より約8ポイント高い。
 ○「国語の勉強は大切だ」の設問には肯定的意見が100%であった。国語の授業が好きと答えた割合は68%と県平均は超えているが大切と答えた割合は低いので、意欲をもって授業に臨めるよう努めていきたい。
 ○「先生はあなたのよいところを認めてくれる」肯定的割合は100%である。「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では、県の肯定割合より11ポイント高い。今後も、児童が自己肯定感を高められるような声掛けを続け、自分のよさをさらに伸ばしていけるようにしたい。
 ○「困りごとや不安があるときに先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」は84%で、県の肯定割合に比べ10.9ポイント高い。今後も、教育相談などに限らず、児童が相談しやすいような環境を作っていきたい。
 ●「学習内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていますか」の設問に対しては県平均に比べて11.6ポイント低い。復習を積極的にしている児童が少ない様子が見られるので、テスト直前から復習につなげられるように指導していきたい。
 ●「道徳の授業で学級やグループでの話し合いの活動に取り組んでいる」が県平均に比べて8.8ポイント低い。個人で考える割合が高いので、ペア活動やグループ活動をより多く取り入れ、道徳的価値を高められるようにしていきたい。
 ●「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」が県平均に比べて10.1ポイント低い。基礎学力の維持のため定期的に課題を出し家庭学習の充実を図る必要がある。
 ●「学校が休みの日にどれくらいの量の読書をしていますか」の質問に、県の平均を16ポイント上回る60%の児童が、10分未満と回答している。また、「屋休みや放課後、学校が休みの日に、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問に、県の平均を27.6ポイント上回る66%の児童が全く行かないと回答しており、利用している児童が少ないことが言える。以上の結果から、読書に親しむ経験をたくさんすることができるようにおすすめの図書の紹介や担任による読み聞かせを取り入れるなど工夫していきたい。

宇都宮市立清原東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な学習を身に付け言語感覚を豊かにする指導の工夫	・漢字計算オリンピック、朝の学習等の工夫による基礎・基本の定着 ・言葉に着目させる問いかけの工夫と効果的な言語活動の設定 ・一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い	・国語では言葉の特徴や使い方に関する事項で、算数では数と計算で課題が見られた。 ・クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると考える児童が多い。 ・条件に合わせて書く活動に苦手意識が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・語彙力や自分の考えを書くための表現力が不十分である。 ・家庭での学習時間が少ないことや復習などの自主学習への取組に課題がある。	・語彙力や表現力を付ける取組の工夫 ・家庭学習の充実を図る取組。	・スマイルネクストドリルを活用した反復練習を行い、漢字や語句の理解や計算力をつける。 ・視写に取り組ませたり、国語辞典、漢字辞典を活用し語句を増やしたりすることにより表現力を養う。 ・国語の授業では、児童が見通しをもち意欲的に取り組めるような言語活動を工夫する。 ・自主学習を計画的に取り組めるよう工夫する。